

戸隠神社

平成26年[秋冬号]
戸隠神社発行
〒381-4101
長野県長野市戸隠3506
026-254-2001

平成二十七年式年大祭

式年とは定められた年限という意味で、戸隠神社では、丑年と未年に（七年に一度）当社最大の御祭典、式年大祭が執り行われます。未年の来年、四月二十六日から五月二十六日の間、様々な行事が繰り広げられます。

当社には、戸隠山中腹の奥社を御本社とし、九頭龍社、中社、火之御子社、宝光社がございます。もとは中社・宝光社の御祭神も天手力男命（あめのたちからのおみこと）と共に奥社にお鎮まりでしたが、康平元（一〇五八）年、宝光社に天表春命（あめのうわはるのみこと）が、寛治元年（一〇八七）年には、中社に天八意思兼命（あめのやごころおもいかねのみこと）が御遷座されました。

中社・宝光社の御祭神は、天手力男命の御委任により、広く萬民を救い恵み給うため御神業をされ、式年にその数々を奥社にご報告祭神が、御父神・天八意思兼命のお鎮まりになる中社にお渡りになり（渡御の儀）、一定期間お過ごしの後、お還り（還御の儀）になります。

〈神と仏に会う年〉

戸隠山は、明治維新まで神仏習合の山で、戸隠山頭光寺と称し、奥院、中院、宝光院の三院から成り、各院では数多くの寺（院）で僧侶（衆徒）が仕えていました。衆徒は、過酷な自然環境のもとで、神と仏に仕え、戒律を守り掟に従い厳しい修行に励むことが求められました。



文化元（1804）年に造営された御神輿

隠信仰、九頭龍信仰の本質の決定的変容を意味するものではなかったことが、ここに窺われます。明治二十八年、旧衆徒は戸隠神社に奉仕することが約束されました。実に三十年近い月日が流れたのです。神と仏の関わりについては、大祭毎の出版で明らかにしてまいりましたが、平成十五年、戸隠山最重儀の柱松神

やがて明治維新という運命の日々が訪れます。維新における神仏分離に際し、慶應四年（明治元年・一八六八）衆徒は復飾（ふくしき）僧籍を離脱して還俗することとなりました。御神前から仏像・仏具は取り払われ、頭光寺に換わり戸隠神社が発足、復飾した旧衆徒は、いったん神主の資格を得ますが、明治六年、その資格の奉還と民籍への編入を命じられるに至り、国家管理下の神社との関係は絶たれたのです。神仏分離という現実と僧侶であった旧衆徒の内面の問題、不安定な経済基盤、幾重もの困難を越え、御神前で奉仕するまでの旧衆徒の長い道のりが始まりました。

戸隠の大自然を畏敬し、水源への信仰により、その恵みを享受してきた古くからの信者を基とする戸隠講再興（明治九年（十三年）、太々神樂講再開（同十四年）等、神社と旧衆徒による宗教活動が段階的に構築されていきました。神仏分離が、戸



木造阿弥陀如来坐像 長野市戸隠豊岡・宝界寺蔵

事（次面参照）の江戸末期以来の復活とともに、神仏分離により山外に引き取られた仏像の里帰り・拝観という新たな歴史が刻まれました。大祭期間中、お祀りいただいている寺院関係各位のご理解により、奥院の聖観音、中院の釈迦如来、宝光院の阿弥陀如来（写真右）が宝光社に会したのです。平成二十一年には、宝光院の本地仏である勝軍地藏も善光寺大本願より帰山、参拝の方々の熱心な祈りが捧げられました。

こうした経緯を踏まえ、平成二十七年は、「祈りを繋ぐ 神と仏に会う年」と表し、帰山仏拝観ほか次面の各種行事を計画しております。特に、今回の渡御（五月六日）還御（五月二十四日）では、神仏習合時代の文化元（一八〇四）年に造営された御神輿（写真上）が用いられることが決定しております。多くの皆様に戸隠山の歴史に触れていただき、神仏の御恵があらんことを願う次第です。

平成二十七年、戸隠神社式年大祭、善光寺御開帳、北陸新幹線金沢開業。信州へのお出かけをお待ちしております。

※あをがき（青垣）とは切り立った険しい山が垣根のように連なる様子。当社では祝詞の中で「青垣成す戸隠山の麓に鎮まり坐す戸隠神社」と用います。



渡御の儀

戸隠神社最大の盛儀である式年大祭のクライマックスとして執り行われるのが、「渡御の儀、還御の儀」です。

渡御の儀は、宝光社の御祭神である「天表春命」が、御父神である中社の御祭神「天八意思兼命」とご対面される儀式で、「宝光社、中社の御祭神は、奥社の御祭神天手力雄命の御委任の随に、御神業を行い、その数々を奥社に報告されること」とされていたが、現在は、中社でのご対面の形となっています。

両御祭神が中社にお揃いの間を中心に、連日、式年大祭特別祈禱が行われ、太々神楽の献奏をはじめ、各種神賑行事が奉納されます。(神賑行事の詳細は後日お知らせします。)

ご対面を終えられた「天表春命」が、再び宝光社にお戻りになるのが、「還御の儀」。

「渡御の儀」、「還御の儀」は戸隠地区にとっても最大の行事で、静々と進む御神輿に供奉する祭員、楽人、稚児行列、そして戸隠各地域の獅子神楽や山車が織りなす時代絵巻は、山里に一齐に花が開いたようにきらびやか。今回の「渡御の儀、還御の儀」には、江戸時代に造営された古い御神輿が使われる予定です。

渡御の儀
(五月六日)

還御の儀
(五月二十四日)



柱松神事

柱松神事

古来、修験道の重要な宗教儀式で、柴燈護摩ともいわれ、戸隠では鎌倉末期にはじまり江戸末期に中断するまで脈々と行われてきました。現在でも、八月の大祭の折、三本の幣束を火にかざす神事が行われており、往時を偲ぶことができます。

平成十五年の式年大祭の折、各種文献、史料、更には現実には柱松神事が行われている神社などを調査し、復元したものが、戸隠神社柱松神事です。

柱松とは、大きな松明のこと。三本の柱松はそれぞれ、奥院、中院、宝光院の特徴を示したものとなっております、水を司る奥院大権現は「五穀豊穰」、知恵の神、中院大権現は「天下泰平」、商工技芸を司る宝光院大権現は「商売繁盛」ののぼりを立て、さらに、斎場には「白山大権現、飯縄大権現、九頭竜大権現」をお招きし祭事を行います。



戸隠山祭礼図巻 真田宝物館蔵

また、各地から訪れた参拝者の願いが込められた祈願串が柱松の炎で焼き清められ、万福の招来が祈念されます。

当日は、戸隠一山の聚長及び関係者が古の山伏に扮して一連の行事を行い、戸隠の成り立ちと歴史を感じさせてくれます。渡御と還御の中間、五月十日に中社境内に於いて執り行われます。

式年大祭行事予定表 (平成26年7月現在)	月日	曜日	場 所				
			奥社・九頭龍社	中 社	宝物館 (中社)	宝光社	
	4月26日	日	式年大祭執行奉告祭 (各社)		宝物館 (中社)	宝光社	
	4月27日	月	結びの系 [九頭龍社]	式年大祭特別祈禱 (11:00 / 14:30)	式年大祭特別展示 (4月1日~)	船山仏着山式	
	4月28日	火				御神座回廊特別参拝・御印紋頂戴	
	4月29日	水				船山仏拝観	
	4月30日	木					
	5月1日	金			(9:00 ~ 16:30)	(10:00 ~ 16:30)	
	5月2日	土					
	5月3日	日					
	5月4日	月					
	5月5日	火					
	5月6日	水	渡御の御儀 (里神楽獅子舞奉納)				
	5月7日	木					
	5月8日	金					
	5月9日	土					
	5月10日	日	柱 松 神 事				
	5月11日	月					
	5月12日	火					
	5月13日	水					
	5月14日	木		祈年祭 (10:30)			
	5月15日	金	祈年祭 (11:00)	宣燈踊り			
	5月16日	土				祈年祭 (11:00)	
	5月17日	日	奥社奉告祭				
	5月18日	月					
	5月19日	火					
	5月20日	水					
	5月21日	木					
	5月22日	金					
	5月23日	土					
	5月24日	日	還御の御儀 (里神楽獅子舞奉納)				
	5月25日	月					
	5月26日	火	式年大祭終了奉告祭 (各社)			船山仏離山式	